平成26年度活動報告書(1/4)

学部・委員会名	総合研究所
学部長・委員長等氏名	所長 渡邊文雄
担当所管	総合研究所
テーマ	研究費の適正使用に向けた研究者サポート体制の強化

<p>1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）</p> <p>（目 標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究費の適正使用と研究支援の観点による「研究費使用に係る事務手続き」の検討 ・研究者のための「研究費使用マニュアル」の作成 <p>（背景等）</p> <p>研究費不適切使用の問題を受けて、所轄庁や会計検査院等から研究費の適正使用に向けた体制整備が求められ、ここ数年間で関連部署による業務対応が随時行われてきた。</p> <p>一方、研究費を使用するための事務手続きが非常に煩雑となっており、研究者から見て理解しにくい業務フローとなっている部分がある。</p> <p>そこで、研究者サポート体制の強化を図るため、「研究費の適正使用に向けた体制整備」と「研究しやすい環境」の両立を実現できる業務フローを検討する。</p>
<p>2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）</p> <p>①現在の研究費使用に係る事務手続き（総研以外の関連部署の事務手続きを含む）を検証する。</p> <p>②「公的研究費等の適正執行に関する説明会」アンケート等により、現在の研究費使用に係る事務手続きに対する研究者の意見を把握する。</p> <p>③研究費使用に係る学内外監査（会計検査院、農林水産省、文部科学省、内部監査室等）における指摘事項を整理し、研究費使用に関連する部署間で情報共有する。</p> <p>④研究費使用に関連する部署間において、研究費の適正使用と研究支援の観点による事務手続き（業務フロー）の構築に向けた検討を行う。</p> <p>⑤研究者にとってわかりやすい「研究費使用マニュアル」を関連部署の協同で作成し、研究者へ周知する。</p>
<p>3. 達成度を判断するための指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合研究所内で研究費使用に係る事務手続き（業務フロー）の検証ができたか ・関連部署によるミーティングが開催できたか ・「研究費使用マニュアル」を作成できたか
<p>4. 成果・評価</p> <p>■成果</p> <p>実施計画に基づく活動を行ったが、5. に挙げるような課題があり、現段階では実施計画の見直しが必要との判断に至ったため、それ以上活動を継続することができなかった。</p> <p>■評価（5～1で記載してください）</p> <p>2（方針に基づいた活動を行ったが、目標に対する達成度が不十分で、改善すべき点が多い）</p>

5. 課題及び改善事項

研究費の使用に係る事務手続きは複数所管が関係しており、それぞれの部署において所掌する事務手続きに関する手引き等を独自に作成・管理し、それぞれにおいて改訂も頻繁に行われている（検収に関しては検収課、出張に関しては総務課、科研費の発注に関しては経理課と総合研究所など）。このような状況を踏まえると、現時点でこれらの手引き等を統合して一本のマニュアルにまとめ上げるのは、理想ではあるが至難の業である。

しかしながら、現状は決して研究者にとってわかりやすく体系化されている状況ではないので、本テーマの目標達成に向けた第一段階として、それぞれの担当部署で作成・管理している各種手引き類をリストにして一覧表化し、そこにその手引き等の所在（例えば、教職員ポータルの文書管理の総合研究所の何番など）を記載して研究者へのナビゲート機能を強化するところから始めるべく、本テーマの実施計画を見直して再スタートする。

6. 平成 27 年度への継続の有無

有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成26年度活動報告書(2/4)

学部・委員会名	総合研究所
学部長・委員長等氏名	所長 渡邊文雄
担当所管	総合研究所
テーマ	外部資金の獲得に向けた説明会の実施

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

（目標）

- ・科学研究費助成事業に関する説明会の開催
- ・科学研究費以外の競争的研究資金に関する説明会の開催

（背景等）

研究者の研究レベルをより向上し、大学が研究で評価されるためには、外部研究資金の獲得は不可欠となっている。本学の研究者に対する「研究者サポート体制の強化」の一環として、研究者が外部研究資金の獲得に向けて、より積極的にアプローチできるよう代表的な競争的研究資金の仕組みと申請上のポイントに関する説明会を開催し、より多くの外部研究資金の獲得を目指す。

2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

①科学研究費助成事業に関する説明会

時期：平成26年6月～9月を予定

講師：学術振興会学術システム研究センター専門研究員経験者等

内容：科学研究費助成事業の仕組みと申請上のポイント

時間：1時間程度

②科学研究費以外の競争的研究資金に関する説明会

時期：平成26年6月～9月を予定

講師：(株)島津製作所 産学官プロジェクト推進室の担当者

内容：国の競争的研究資金（JST・NEDO事業を中心に）の仕組みと申請上のポイント

時間：1時間程度

※上記①②をセットで開催する予定。

※開催時期は、配分機関の募集のタイミング等を考慮する。

※3 キャンパスを対象に開催するが、キャンパスごとに現地で開催するか、マルチメディアを使って開催するかについては、別途調整の上決定する。

3. 達成度を判断するための指標

- ・説明会参加人数
- ・競争的研究資金の申請・獲得状況

4. 成果・評価

■成果

上記①、②の説明会をセットで、世田谷キャンパスをメイン会場として、3キャンパスマルチで平成26年6月26日（木）に開催した。

時期的には、平成27年度分科研費の申請（9月1日開始）前であり、科研費をはじめとする競争的資金への応募意欲を啓発するには適当な時期であったと思われる。

参加人数は、世田谷キャンパス＝41名、厚木キャンパス＝26名、オホーツクキャンパス＝10名、合計＝77名と決して多い人数とは言えなかったが、講師からの貴重な情報も入手でき、参加者にとっては有意義な説明会であったと思われる。

平成27年度分の科研費の申請状況も150件と平成26年度分の145件に比べて若干増えたが、これが本説明会の効果によるものとは言い切れない。

■評価（5～1で記載してください）

5（方針に基づいた活動ができ、目標に対する達成度がきわめて高い）

5. 課題及び改善事項

今回は、世田谷キャンパスを会場とし、厚木キャンパス、オホーツクキャンパスはマルチメディアでの開催であったが、研究支援環境の平等性の観点からは、各キャンパスでの開催も検討すべきと思われる。

6. 平成27年度への継続の有無

無

（説明会の実施方法についてのノウハウも蓄積できたので、今後はルーチンワークの中に組み込んで、定期的実施する予定である。）

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成26年度活動報告書(3/4)

学部・委員会名	総合研究所
学部長・委員長等氏名	所長 渡邊文雄
担当所管	総合研究所
テーマ	先端研究プロジェクトの検証と見直し

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

（目標）

- ・本学の研究基盤の向上に資するプロジェクトとしての効果を更に高めるため、これまで実施された先端研究プロジェクトの成果等の検証を行う。
- ・公募の方法や効果的な予算配分等の見直しを行う。

（背景等）

平成18年度より開始された先端研究プロジェクトは8年間を経過し、この間毎年の採択課題数1課題、研究期間3年間、1課題の年間研究費1,000～2,000万円という形で実施し、これまで8課題が終了して当初の目的である「本学の研究基盤の向上」に資する一定の成果を上げてきている（平成25年度現在2課題が進行中）。しかしながら、ここ2～3年、本プロジェクトへの申請件数が減少しているとともに、平成24年度から実施している「大学戦略研究プロジェクト」との違いが明確にされていないなど、総合研究所が実施するプロジェクト研究における位置づけや公募内容等について見直しが必要となっている。

2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

- ①これまで実施したプロジェクトの成果等を研究代表者等へのヒアリング、外部資金獲得状況等から検証する。
- ②プロジェクト研究全体における先端研究プロジェクトの位置づけの再認識を行う（従来の名称にこだわらない根本的な見直し、特に大学戦略研究プロジェクトとの差別化に留意）。
- ③先端研究プロジェクトの対象範囲、採択課題数、予算配分等についての見直しを行う（先端研究部長を中心に検討し、学長の下承を得る）。
- ④学長に承認を得た見直し内容に基づいて、平成27年度予算に盛り込んで申請を行う。
- ⑤プロジェクト自体の見直しとともに、研究者に対して、いかにプロジェクトの趣旨を正確にアナウンスできるか、その方法についても検討を行う。
- ⑥見直しを行った先端研究プロジェクトの周知を図り、新たな内容で公募を行う。

3. 達成度を判断するための指標

- ・平成27年度の応募件数

4. 成果・評価

■成果

実施計画に基づいて、総合研究所先端研究部長が過去の先端研究プロジェクトの研究代表者にヒアリングを行った結果、先端研究プロジェクト採択者は、このプロジェクトをきっかけにその後の研究の方向性を確立し、外部資金等の獲得にもつなげていることが確認された。そのことを踏まえ、平成25年度及び平成26年度の総合研究所部長会で先端研究プロジェクトの検討を行い、研究分野による予算配分の見直し等の必要性はあるものの、本学の研究プロジェクトを牽引する位置づけとして、基本的には今後も継続実施する方向性を打ち出し、平成27年度予算に盛り込んだ。また、平成26年12月4日に過去10年間の先端研究プロジェクトの成果及びその後の研究発展を学内外に公開するシンポジウムを開催した。

しかしながら、最終的な平成27年度の予算査定で先端研究プロジェクトの予算が計上されないことが決定され、平成27年度は実施しないことになった。

■評価（5～1で記載してください）

3

（方針に基づく活動ができたが、結果的に予算計上が見送られたことにより、目標を達成することが叶わなかった。）

5. 課題及び改善事項

6. 平成27年度への継続の有無

無

（平成27年度の予算計上が見送られたので、実施不可能なため）

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成26年度活動報告書(4/4)

学部・委員会名	総合研究所
学部長・委員長等氏名	所長 渡邊文雄
担当所管	総合研究所
テーマ	ホームページの年間運用計画の立案と実施

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

（目 標）

- ・年間イベント等の実施予定に合せた定期的な更新スケジュールの策定
 - ・研究者に対する外部研究資金募集情報のタイムリーな提供と研究成果等の効果的な情報発信（背景等）
- 平成25年度にリニューアルした総合研究所ホームページを多くの方に閲覧してもらうためには、学内外の閲覧者が求める情報（イベント、研究成果、外部研究資金等）を選別し、これをタイムリーに掲出することが重要である。

2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

- ①年度初めに既知の情報をもとに基本となる更新スケジュールを策定する。
担当者において策定を行い、総合研究所事務部内のミーティングにおいてオーソライズする。
- ②各種イベントの日程等が決定した時点で、更新スケジュールに追加する（研究者向けの外部研究資金募集情報等は随時更新する）。
担当者に情報を集約し、漏れのないようにする。
- ③更新スケジュールに基づいて更新作業を行う。
担当者で可能な更新作業、業者に年間メンテナンスの範囲で委託できる更新作業、新たな予算措置をとる更新作業など、作業内容によって区分し実施する。

3. 達成度を判断するための指標

- ・更新スケジュールは策定できたか。
- ・更新スケジュールに基づいてタイムリーな情報発信が実現できたか。

4. 成果・評価

■成果

更新スケジュールの策定は行わなかったが、各種研究情報の定期的な更新及び研究助成等の公募情報のリアルタイムな掲載が実現できた。また、シンポジウムやフォーラムなどイベントの開催案内等の掲載についても行き、学内外に対するタイムリーな情報発信にも対応できた。

■評価（5～1で記載してください）

4（方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた）

5. 課題及び改善事項

6. 平成 27 年度への継続の有無

無

(年間を通じた更新作業の目途はある程度立ったので、今後はルーチン業務の中に組み込んで継続的に実施する予定である。)

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。